

令和7(2025)年度

「 運営に関する計画 」
(最終評価)



- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から明らかになった現状
- 学校アンケートの結果 (R7 児童・R7 保護者)
- 学習者用端末 月間活用状況
- 時間外勤務時間の状況について

上記の資料については、当日、配付します。

※ 提出する書類に、を付けてください。

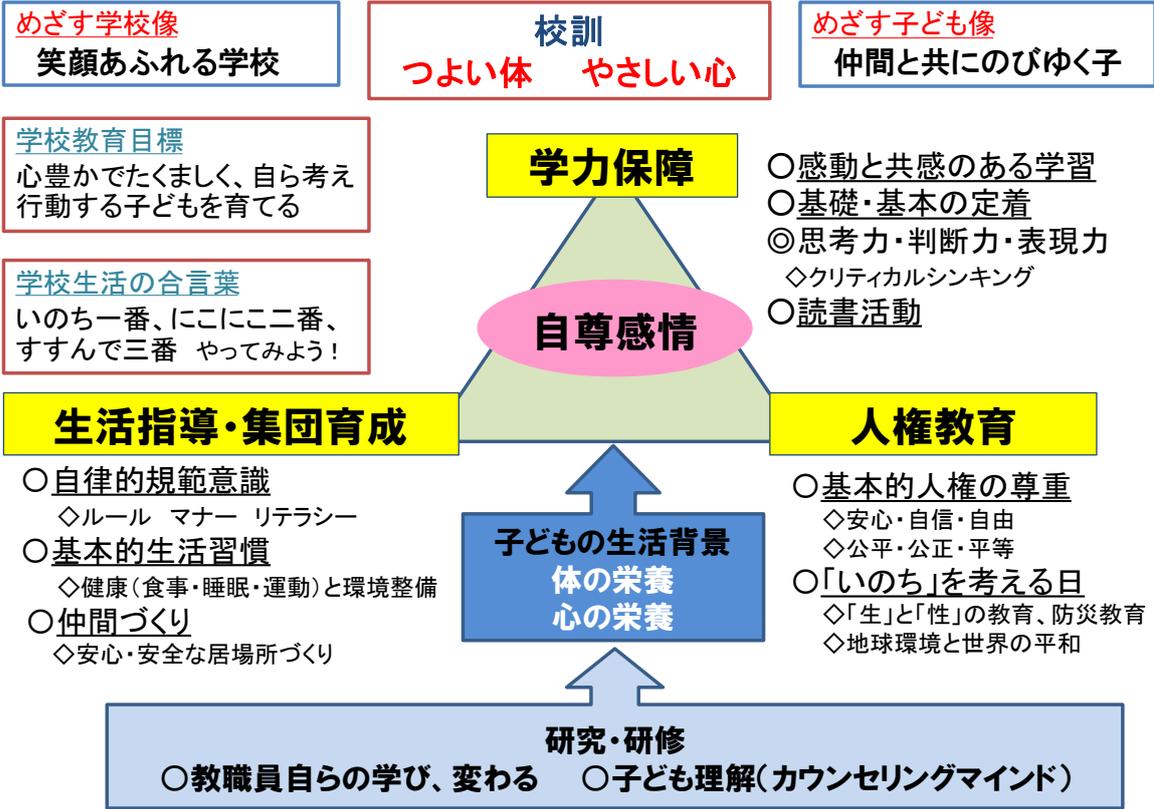
大阪市立木川南小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ① 登校しにくい児童について、校内で情報を共有するとともに、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーと連携し学校全体で対応することができた。
- ② 年間を通じて、児童の心の状態を表す「心の天気」を入力する習慣が身に付き、教職員が確認する体制を整えることができた。また、学校全体で対応することにより、登校しにくい児童も少しずつ登校する日が増え、改善がみられた。
- ③ いじめについて、令和5年度に引き続きスクールロイヤーによる出前授業を実施した。今後は、小さな芽のうちに対応することができるように、児童自らが主体的に考え問題解決へと適切に判断できる力を身につけられるような取組の検討と推進を行うことが求められる。
- ④ 算数科の研究を積み重ね、スクールアドバイザーだけでなく、算数科を専門とした指導主事からも指導助言を受けたことで、教員の授業力がより向上した。
- ⑤ 「自分の意見をもち表現する力」の向上に重点を置き、学習活動を進めてきた。その結果、大阪市小学校学力経年調査の結果において、総合的に各学年で成績の伸びがみられた。
- ⑥ 働き方改革の一環として、教員が元気に健康で児童と向き合えるように、教育課程の見直しをこれまで以上に推進したことで、時間外労働時間の減少という大きな成果を得ることができた。
- ⑦ 学校再編プロジェクト会議を開催し、学校行事の精選をすることで、教員が児童一人ひとりと関わる時間が増え、学習活動の充実と児童の学力向上に結びつく結果となった。

令和7(2025)年度 木川南小学校の教育 グランド・デザイン



【 行 動 指 針 】

- 焦らず、あわてず、無理をせず、できることを精一杯実行する。
- お互いを信頼し、協働することを楽しむ。
- 「多様性」「寛容さ」を大切にする。

【 留 意 点 】

- (協力体制) ① 垣根を低くし、情報交換を密にする
- ② 問題を一人で抱え込まない
- (信頼関係) ③ 温かい一声、小さなことを大きくほめる
- ④ 体罰・暴言は絶対にしない
- (児童理解) ⑤ 指導の前にまず児童理解(共感的理解・肯定的理解)
- (学習指導) ⑥ 相手の話をしっかりと聴き、自分の思いが伝わるように話す
- ⑦ 教え合い、助け合い、いたわり合い、高め合う
- (環境整備) ⑧ 草木が豊かで、温かい雰囲気があり、明るくすっきりした学校・教室
- (専門性) ⑨ 指導観や子ども観を常に見直し、更新していく
- ⑩ からかいやいじめ、差別を絶対に許さない

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○安全・安心な教育環境の実現

- ・令和7年度全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」において、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。(R7:90.4%)
- ・毎年度末の校内調査において、不登校児童の割合を毎年減少させる。(R6:1.90→R7:3.12)

○豊かな心の育成

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」において、肯定的に答える児童の割合を令和3年度(65.5%)より増加させる。(R7:100%)
- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」において、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。(R7:95.2%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○誰一人取り残さない学力の向上

- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか」において、肯定的に答える児童の割合を45%以下にする。(R7:33.5%)
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における市の平均正答率の7割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
(令和3年度 4年:4.8% 5年:9.1% 6年:3.6%)
(令和7年度 4年:11.8% 5年:0.0% 6年:14.3%) 同一母集団で比較できず

○健やかな体の育成

- ・令和7年度の全国体力・運動能力・運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」において、肯定的に答える児童の割合を75%以上にする。(R7:75.5%)
- ・規則正しい生活を身に付けている児童の割合(全国学力・学習状況調査の「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」のそれぞれにおいて、肯定的に答える児童の割合を令和7年度の調査において、70%以上にする。
(R7:寝ています:90.5% 起きています:95.2%)

【学びを支える教育環境の充実】

○教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用しましたか」において、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、85%以上にする。(R7:4.8%)

○人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- ・ゆとりの日について、週1回以上設定する。また、学校閉庁日について、夏季休業期間中は3日以上、それ以外の休業期間においては2日以上設定する。

○生涯学習の支援

- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」において、肯定的に答える児童の割合を、76.5%以上にする。(R7:58.5%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」において、最も肯定的な「思う」と答える児童の割合を79%以上にする。

(R6:76.6%→R7:75.8%)

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を毎年減少させる。

(R6:1.90→R7:3.12)

・校内調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」において、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。(R6:82%→R7:86%)

・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」において、肯定的に答える児童の割合を前年度以上にする。(R6:82%→R7:75%)

・令和7年度全国学力・学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」において、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。(R6:91%→R7:95.2%)

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において 経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

(4年 R6:1.14→R7:1.02 5年 R6:1.02→R7:1.03 6年 R6:1.06→R7:1.00)

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」において、最も肯定的な「当てはまる」と答える児童の割合を前年度以上にする。(R6:35.1%→R7:35.2%)

・小学校学力経年調査・校内調査の「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか」において、肯定的に答える児童の割合を前年度以下にする。

(R6:45.4%→R7:33.5%)

・令和7年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」において、最も肯定的に答える児童の割合を前年度以上にする。(R6:70%→R7:54.2%)

・校内調査の「毎日どのくらいの時間ねていますか」において、8時間以上と答える児童の割合を前年度以上にする。(R6:65%→R7:57%)

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日で前年度以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT活用が適さない日数を除く)

(R6:89.1%→R7:93.1%)

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を80%以上にする。(R6:77.8%→R7:88.2%)

基準1：1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること

：1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

・令和7年度の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」において、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。(R6:73.9%→R7:58.5%)

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

○安全・安心な教育環境の実現

- ・いじめ対応について、丁寧な聞き取りや指導及び管理職への報告だけでなく、朝夕2回の心の天気の入力を徹底している。今後も、児童が相談しやすい環境をつくるとともに、早期発見・早期対応のため、積極的にいじめを認知し、組織的に取り組む。
- ・不登校対応について、登校時に連絡がない際は保護者へ欠席理由を必ず確認し、登校を渋る児童は家まで迎えに行くなど、保護者と密に連携し対応している。今後も、区SSWなど関係諸機関と気になる児童の情報共有を徹底し、多面的な見守り・働きかけを継続する。

○豊かな心の育成

- ・区役所や消防署の協力のもと、避難訓練や防災訓練を通じて、保護者・地域とともに「自助・共助」の意識を高めた。今後も、校長講話や各種訓練と連携した教科横断的な防災・減災教育を行い、児童が自らの命を大切にしよう指導する。
- ・校内調査の結果より「自分にはよいところがある」と積極的に思う割合が低く、受動的な児童が多いことが課題である。縦割り活動だけでなく、地域と連携した取組など、キャリア教育のさらなる充実が必要である。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○誰一人取り残さない学力の向上

- ・これまでの思考ツールの実践のほか、小規模校ならではの個に応じた丁寧な指導により、全国学力・学習状況調査の結果において全国平均を上回っている。
- ・自分の考えを文章にあらわしたり、文章を要約したりすることに課題があるため、自分の考えを文章にあらわす機会を増やすなど、児童が主体的に学習に取り組むよう普段から「話すこと・聞くこと」および「書くこと」を意識した授業改善を継続する。
- ・OENを活用した探究型・体験型学習による『主体的・対話的で深い学び』の実践を通して、児童が自ら課題を見つけ、自分の考えを深めたり、解決に向けて他者とともに考えを広げたりする力の育成に努める。今後は、教員にはファシリテーター（進行役）として「目標の設定・共有」や「議論の促進・整理」といった役割が求められる。

○健やかな体の育成

- ・コロナ禍を経て、入学時から運動量の少ない児童が高学年となったこともあり、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果はとても低く、今年度は全種目において大阪市平均を下回った。基礎的な体力・運動能力の向上のため、体育科の学習と学校行事において、バランスの取れた年間指導計画の検討が必要である。
- ・睡眠、食事、運動を意識した規則正しい生活などの健康づくりに、児童が自ら取り組むためどのように働きかけるのか、年間指導計画や具体的な取組内容の検討が必要である。

【学びを支える教育環境の充実】

○教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ・全学習活動においてICT機器を効果的に活用しており、授業でのデジタル教科書やデジタルドリルの積極的な活用や、教科外活動でのスライドやポスター作製など、児童が学習者用端末を活用する機会が増加している。今後もこれを継続する。
- ・学習者用端末の持ち帰りについて「充電だけでなく、意味を持たせてほしい」、「家庭でゲームばかりしている」とのご意見があった。学習者用端末の活用について、継続した児童への指導および家庭との連携と、生成AIの活用など教員のさらなるスキルアップが必要である。

○人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- ・今年度から実施している担当授業時数の平坦化について、仕事を持ち帰ることはあるものの、教員の負担軽減に大きな効果があった。今後は、若手教員の育成と中堅・ベテラン教員のさらなるステップアップも兼ねた学校組織の構築が求められる。
- ・学校再編プロジェクトについて、例えば『柔軟な教育課程』や『非認知能力の向上』、『本校の授業時数平坦化』について検討するといった、これからの教育について教職員が意見交換できる場にもする。

大阪市立木川南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」において、最も肯定的な「思う」と答える児童の割合を79%以上にする。(R6:76.6%→R7:75.8%)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を毎年減少させる。(R6:1.90→R7:3.12)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」において、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。(R6:82%→R7:86%) 校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」において、肯定的に答える割合を前年度より増加させる。(R6:82%→R7:75%) 令和7年度全国学力・学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」において、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。(R6:91%→R7:95.2%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導連絡会（スクリーニング会議Ⅰ）において児童一人ひとりの状況や課題を全教職員で共有し、いじめの未然防止に学校組織として取り組む。 (いじめへの対応) 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導連絡会（スクリーニング会議Ⅰ）を毎月開催し、情報を共有する。 	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災・減災・防犯教育を進め、「自分の命は自分で守る」意識を高める。 (防災・減災教育の推進) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域と連携して防災訓練を実施すると共に、年3回以上の避難訓練と不審者対応訓練を年1回実施する。 	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめや不登校が起こりにくい思いやりのある学校づくりをめざし、人権教育および道徳教育の深化・充実を図る。 (人権を尊重する教育の推進) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年3回「いのちについて考える日」に合わせて、各学年で人権教育・道徳教育の集中実践を行う。 	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導・集団育成の取組を通して、他者への感謝の気持ちを持ち、責任ある行動をとることができる自律的な規範意識を醸成する。 (道徳教育の推進) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査における「友達のことを考え、仲良く助け合っている」「気持ちのよいあいさつをしている」の項目についての肯定的回答率を80%以上にする。 (R6:85%→R7:95% R6:76%→R7:91%) 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①月に1回の職員連絡会議で児童の情報を共有し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携しながら児童理解に努めた。
- ②年3回以上の避難訓練と地域防災訓練を計画的に実施し、子どもたちに自分の命を守るための適切な行動や心がけを考えさせる機会を設けた。また、事前指導では、全学年共通のスライドを活用し、訓練の内容や大切さを深めた。
- ③「いのちについて考える日」には、人権教育の年間計画に沿って学校長の講話を行っている。また、各学年で集中実践を行って「いのち」について考えることができている。
- ④あいさつ週間のときには、意識してあいさつをしている児童が目立っていたが、あいさつ週間が終わってしまうと自主的にあいさつする児童が少ない。

改善点

- ①引き続き、職員連絡会で児童の情報共有を行い、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携しながら児童理解に努める。
- ②事前指導用のスライドについて、各学年に合わせて内容を精査していく。
- ③講話と学期ごとのテーマが一致していなかったため、事前に内容を打ち合わせる。
- ④気持ちの良いあいさつについて児童の理解を促すため、あいさつ週間を実施する前に、計画委員会のロールプレイで手本を示したり、各学級で指導したりするなどしてから、取り組みを始める。

大阪市立木川南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 (4年 R6:1.14→R7:1.02 5年 R6:1.02→R7:1.03 6年 R6:1.06→R7:1.00)</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」において、最も肯定的な「当てはまる」と答える児童の割合を前年度以上にする。(R6:35.1%→R7:35.2%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査・校内調査の「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか」において、肯定的に答える児童の割合を前年度の調査以下にする。(R6:45.4%→R7:33.5%) 令和7年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」において、最も肯定的に答える児童の割合を前年度の調査以上にする。(R6:70%→R7:54.2%) 校内調査の「毎日どのくらいの時間ねていますか」の項目で、8時間以上と回答する児童の割合を前年度の調査以上にする。(R6:65%→R7:57%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 思考ツールを活用し、「対話」を通じて考えを深めたり広げたりし、協力してよりよい未来を切り拓いていこうとする意志と態度を育む。 （「主体的・対話的で深い学び」の推進） <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定的回答率を前年度以上にする。(R6:71.5%→R7:72.5%) 	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの基礎学力の定着を育成するために、既習の漢字の定着を図る。 （言語活動の充実） <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査の「学校の授業で学習したことがわかる」の項目で肯定的回答率を85%以上にする。(R6:88%→R7:91%) 4年生、5年生でチャレンジする漢字能力検定をめざして、各学年で漢字の定着を図るため、くり返し学習に取組、ショートテストを定期的実施する。 	B
<p>取組内容⑦【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な感染症予防の知識と習慣を身に付け、免疫力を高めるためにも睡眠（「ヨドネル」）、食事、運動を意識した規則正しい生活が重要であることを理解し、健康づくりに取り組むことができるようにする。 （健康教育・食育の推進） <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査の「毎日どのくらいの時間ねていますか」の項目で、8時間以上と回答する児童の割合を前年度の調査以上にする。(R6:65%→R7:57%) 	B

取組内容⑧【基本的な方向5 健やかな体の育成】
 ・運動することの大切さを理解し、体育学習だけでなく日常生活を通して、進んで運動に取り組む子どもを育てる。
 (体力・運動能力向上のための取組の推進)

B

指標

・校内調査の「毎日、すすんで体を動かしたり、スポーツをしたりしている」の肯定的回答率を85%以上にする。(R7:82%)
 ※「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好き。」(R6:84%)

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ⑤学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定的回答率が前年度を僅かに上回った。シンキングタイムでは思考ツールを活用し、友だちに考えを広めることができた。また、普段の授業ではペアやグループでの対話を積極的に取り入れた結果、自分の考えを表現できる児童が増加した。
- ⑥校内調査の「学校の授業で学習したことがわかる」の項目で肯定的回答率が91%と指標の85%を上回った。学年の実態に合わせ、児童が意欲的に学べるよう工夫を凝らしながら授業作りに取り組んでいる結果である。また、漢字能力検定についても児童のモチベーションを高めながら取り組んだ。
- ⑦校内調査の結果、8時間以上と回答した児童は57%で前年度を下回った。特に、高学年は習い事や塾等で帰りが遅くなりがちな児童が多いことから、睡眠を確保するのが難しいのではないかと考える。また、低学年でも就寝が遅い児童が一定数見られる。
- ⑧熱中症アラートにより、運動に制限があり十分な時間の確保が難しい時期もあるが、可能な時は休み時間に外に出て体を動かしている児童が多く見られた。指標の数値には少し届かなかったが、多くの児童が運動や体を動かすことが好きだと感じている。

改善点

- ⑤自分の考えを伝えるだけでは考えを深めたり広げたりしたことにはならず、教員が対話の定義を共通理解する必要がある。児童が様々な意見を出し合い、整理し、新しい考えを生み出すことができるよう、自分の考えに偏ることなく多面的な見方ができる児童を育成していくために、来年度も研究を続ける。
- ⑥漢字能力検定の時期について、2学期では学年相当の漢字学習が未履修である。来年度も2学期に実施予定であるため、進度を早めたり、繰り返し問題を解いたりするなどの対策をしなければならない。
- ⑦睡眠時間の確保に関しては、指導者からの啓発だけでは改善は難しい。睡眠の大切さなど学んだり、保護者に啓発や講演会をしたりするなど、視点を変えたアプローチを検討する。
- ⑧学校全体で取り組んでいる「かけ足運動」や「なわとび運動」では、子どもたちが今より目標意識を持って取り組めるよう、成果の実感ができるような機会の充実を図る。また、これまで毎日宿題として取り組んできた「運動チャレンジ」は、子どもたちのがんばりを正確に把握するため、いったん廃止とする。その代わりに、体育科の年間指導計画を見直し、授業での充実を図る。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ⑨単元や学習内容に応じて、ICT 機器を活用した学習を進めた。特に、授業では QR コードを読み取って使用する練習問題や教科ごとの調べ学習、スライドを用いた発表等で ICT 機器を活用した。また、3 学期からは、従来の紙の連絡帳ではなく Teams や Classroom を用いて児童および保護者への連絡を行っており、授業だけでなく普段使いとしても活用している。
- ⑩心の天気の入力や確認がより習慣化され、毎日の確認ができている。しかし、それだけで児童の心理状態を正確に把握できているかどうかについては検証が必要である。
- ⑪学校再編プロジェクト会議を計画通り行い、改善に努めた。ペーパーレス化が進んでおり、業務の効率化につながっている。
- ⑫学校図書館貸し出し冊数は、指標を上回り 48.9 冊であった。図書委員会の担当児童が図書開放を毎日行っている。また、児童が活用しやすいよう学校司書が積極的に環境整備を行っている。

改善点

- ⑨引き続き、ICT 機器の効果的な活用について研修等で取り入れていく。また、次年度に向けて、漢字ドリルや計算ドリルをデジタル版に移行するかどうかを検討する。
- ⑩心の天気の入力はもちろん継続したうえで、いじめアンケートの実施内容の確認や、スクールライフノートの相談タブの積極的な活用を行い、児童の心理状態の把握の幅を広げつつ、児童をしっかりと観察していく。
- ⑪来年度からは、統廃合に向けての話し合いの機会を持つことも視野に入れ、学校再編プロジェクト会議をはじめ、行事や業務内容に関する会議の内容や持ち方について検討する。
- ⑫図書開放をしているが、児童の利用者が少ない。読書週間を自由参加ではなく学年ごとの参加とするなど、さらなる利用に向けて検討する。

1 総括についての評価

学校運営に尽力して頂き地域を代表して感謝している。登校しにくい児童に対しても校内だけでなく外部の専門機関にも協力してもらいながら対応している丁寧さを感じた。学力向上に対しても、日々、先生方の努力を感じることができる。世間一般にも言われているが、先生方の心の健康だけはもちろんのこと、児童に元気な姿で接して欲しいと感じていたので、「時間外労働時間」が減っていることはいい事である。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

①～④について承認をした。

不登校児童が昨年に比べ、増えていることに心が痛い。いじめについても事前対策をしていることが理解できる。今後も引き続き児童への取組をお願いしたい。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

⑤～⑧については承認をした。

学力・体力の向上に日々、先生方が努力しているのがよく理解できる。学習者用端末の利用を進めている取り組みに期待したい。引き続き授業改善をお願いしたい。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

⑨～⑫については承認をした。

先生方の「働き方改革」が進んで、児童に健康で元気に向き合うことができれば、学力・体力のさらなる向上につながると考えている。また、読書を好きな児童がもっと増えることを願う。

3 今後の学校園の運営についての意見

来年度も今年度と同等な教育活動をお願いしたい。新入学児童が2名で児童数が減少していく中で今まで通りの教育活動を維持しながら、実情に合わせた対応もお願いしたい。また、学校行事の更なる精選を進めることに賛成する。例年、児童の熱中症対策等、児童の健康管理に苦勞している実情の中、児童中心に尽力することを願う。